

アームダンパーの効果(1)

—ThorensTD124—

1. 始めに

インフラノイスのホームページで紹介のあったアームダンパーを試してみます。今回は、ThorensTD124 のアーム RMG-212 を対象とします。

2. アームダンパーの試聴計画

インフラノイスのホームページで紹介のあったアームダンパーを試してみることにしましたが、その一つは、手芸用のフェルトを切り抜いたもので ThorensTD124 のアーム RMG-212 の可動部と固定部の間の軸に軽く挟み込みます。なお、アームの高さ調節は VTA (Vertical Tracking Angle) を調節済なので変えたくありません。



もう一つは毛糸で RMG-212 の軸に巻き付けます。巻き付けの回数は、可動部と固定部の軸の隙間をみながら調整します。3 ターンくらいが良さそうです。



また、この機会にレコードスタビライザーのレコードの接触面に両面テープでフェルトを貼り付け、ターンテーブルアキュライザーと聴き比べてみます。



試聴する音源は、低音の試聴に適した次のものです。

Archiv 28MA 0020

バッハ チェンバロ協奏曲集

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

Camerata Tokyo CMT-1002

ロッシーニ チェロとコントラバスのためのデュオニ長調他

イエルク・バウマン (チェロ)

クラウス・シュトール (コントラバス)

3. アームダンパーの試聴結果

バッハのチェンバロ協奏曲集では、チェンバロの低音と通奏低音に注目して聴いていきます。ロッシーニのチェロとコントラバスのためのデュオでは、チェロの低音とコントラバスのそれぞれ低音に注目して聴いていきます。

フェルトのアームダンパーの場合は、次のような結果が得られました。

フェルトのアームダンパーを **RMG-212** の軸に挟み込みますと、バッハのチェンバロ協奏曲集では、チェンバロの低音部のクリアーになり、通奏低音が明瞭になり、低音が明瞭になった分、中高音も澄んできます。

この状態で、ターンテーブルアキュライザーをレコードの接触面に両面テープでフェルトを貼り付けたレコードスタビライザーに替えますと、音は整理されますが、開放感が抑制され、響きが痩せてきます。

ロッシーニのチェロとコントラバスのためのデュオでは、チェロの低音とコントラバスの滲みがとれ、コントラバスの量感が増してきます。

毛糸のアームダンパーの場合は、次のような結果が得られました。

バッハのチェンバロ協奏曲集では、毛糸を **RMG-212** の軸に巻き付けますと、フェルトの場合とほぼ同じ結果が得られました。

ロッシーニのチェロとコントラバスのためのデュオでは、フェルトの場合と同様の結果が得られましたが、若干効果の度合いは落ちるようですので、ターン数の調整が必要かもしれません。

試みに毛糸をほどきますと元に戻りました。

4. まとめ

フェルトを切り抜いたアームダンパーと毛糸を巻き付けるアームダンパーを **ThorensTD124** のアーム **RMG-212** にセットする効果を認めました。

以上